

■空手組手

高松中央男女3種目V

■新体操男子個人総合

中野(坂出工)県勢初の優勝

全国高校選抜大会

空手と新体操の全国高校選抜大会が25日、各地で行われ、空手組手で高松中央勢が女子団体と男女個人の計3種目で頂点に立ち、新体操男子個人総合では、中野幸太郎(坂出工)が県勢初優勝を果たした。(15面に関連記事)

空手は東京体育館で開催された。女子組手団体は高松中央が初戦から順当に勝ち上がり、済美(岐阜県)との決勝は0-2から3連勝して逆転優勝。2年ぶり2度目の日本一で、新型コロナ

ロナウィルスの影響で中止となった昨大会を挟んで「2連覇」となった。

個人では、女子チーム主将の釜つばさが59キ以上級を制し、団体との2冠を達成。男子は76キ以上級の岩本遼が栄冠に輝いた。26日には男子の組手団体が行われる。

新体操は北海道立総合体育センターであり、男子個人総合はロープとリングの2種目で争った。中野は最初のロープを4位、リングを2位にまとめ、合計31・675点。2位に0・050点差で制覇した。

高松中央 優勝ラッシュ

空手組手



空手女子組手団体で2年ぶり2度目の日本一に輝いた高松中央—東京体育館

女子団体、男女個人制す

全国高校選抜大会は25日、各地で8競技が行われ、県勢は6競技に出場。組手が行われた空手は高松中央が優勝ラッシュを見た。女子団体は決勝で逆転勝ちを収め、2年ぶり2度目の日本一を手にした。個人では女子59kg以上級で釜づばさが団体との2冠を達成。男子も76kg以上級の岩本遠が制覇し、26日の団体に弾みをつけた。(1面参照)

新体操でも県勢が快挙を達成。男子個人総合で中野幸太郎(坂出)が2種目合計31・675点で県勢初優勝を飾った。種目別のリンクは準優勝、ロープは4位入賞。

全国高校選抜大会

ハンドボールは男女の2回戦が行われ、初戦を迎えた男子の香川中央は関東第一(東京)に31-19と圧勝し、2019年大会以来の優勝に向けて好スタートを切った。女子の高松商も聖和学園(宮城)に25-15と快勝した。

徳島特別大会のボクシングは女子フライ級の崎川伶衣音(高松工芸)が1回戦で敗れたが、出場が4選手のため3位となった。レスリング個人は3選手が3回戦に進出した。バドミントン団体は男子の英明、女子の高松商ともに初戦の2回戦で姿を消した。

空手

▽男子組手個人68kg級1回戦

寺西 優太	5-1	山口 愛斗
三橋 颯士	5-1	中島 星武
海野 陽乃汰	3-1	上田 樹生也
▽同組手個人61kg級1回戦		
三橋 颯士	5-1	中島 星武
海野 陽乃汰	3-1	上田 樹生也
▽同組手個人76kg級1回戦		
三橋 颯士	5-1	中島 星武
海野 陽乃汰	3-1	上田 樹生也

寺西 優太	5-1	山口 愛斗
三橋 颯士	5-1	中島 星武
海野 陽乃汰	3-1	上田 樹生也
▽同組手個人68kg級2回戦		
三橋 颯士	5-1	中島 星武
海野 陽乃汰	3-1	上田 樹生也
▽同組手個人76kg級2回戦		
三橋 颯士	5-1	中島 星武
海野 陽乃汰	3-1	上田 樹生也



空手組手個人で男女優勝を飾った高松中央の岩本(左)と釜づば(右)

“土俵際”からの逆転劇

2年ぶり2度目 団体女王

決める、そのまゝ1-0で逃げ切ったチームに勇気を与えた。

続く岡山は冷静な試合運びで副将戦を制して2-2。仲間の奮闘を受けて、大将の龍野は「みんなが自分につないでくれた。思い切り戦った」と気合十分で挑んだ。

相手にじりじりとプレッシャーをかけ続け、試合時間が1分を切ったとき「いける」と直感で勝負どころを見極めた。きつちり上段突きを決めて1点を先取。均衡を破ると、終盤にかけては一気の攻勢で得点を重ね、終わってみれば7-1と圧勝。「狙える技は」と意気込んだ。

追いつめられて強さを発揮した選手。全国屈指の厚さで、日ごろから激しい競争を繰り返しているが、互いに認め合い尊敬し合う関係。岡山は「大将の龍野さんに任せば絶対に勝つてくれると思ってた。みんな信頼できる仲間」とチームワークを勝因に挙げた。

次は夏の頂点が目標となる。女子チーム主将の釜づばは「今まで通り雰囲気良くチームをつくり、春夏の2冠を目指す」と意気込んだ。

【空手女子組手個人59^キ以上級決勝】高松中央の釜(右)が相手を攻める—東京体育館



釜、実力発揮 個人もV 女子

空手女子組手個人59^キ以上級決勝は、釜(高松中央)が接戦を制して頂点に立った。昨年の全日本選手権組手個人では年長者に交じって3位に入った実力をいかんなく発揮。団体も制して2冠に輝き、「最高。練習を頑張ってきた良かった」と瞳を輝かせた。決勝戦はこれまでに何度でも対戦し、互いに手の内を知る相手。先

取点を挙げた後、両者打ち合いになつて3、勝負の行方は終盤にもつれ込んだ。勝利を大きくたぐり寄せたのは残り13秒の返し技。相手の突きに合わせ、上段突きを逆にたたき込んだ。「スビードのある選手なので、返し技が有効と思つていた」と狙い通りの一発だった。冷静な試合運びは全日本選手権の経験が大きな感にじませた。

▽同2回戦
 豊田 陽也 4-3
 (高松中央)
 池田 匠弥 2-1
 (高松中央)
 友部 力輝
 明子 秀輝
 千代 秀明
 斎藤 一関
 (大阪・大北陽)

田山 連太郎 2-0
 (大阪・浪)
 速 2-1
 阿部 遥佑
 (東京・世)
 田谷 学園
 池田 匠弥
 (高松中央)
 石黒 倫之介
 (高松中央)
 清水 世空
 (東京・世)

岩本 遼 6-0
 (高松中央)
 川島 暮和萌
 (埼玉・埼)
 橋本 拓海
 (福岡・東)
 福岡 9-1
 岩本 遼
 (高松中央)
 三川 弦大
 (神奈川・横)

▽同2回戦
 岩本 遼 6-0
 (高松中央)
 田谷 学園

▽同決勝
 岩本 遼 4-3
 (高松中央)
 浜創 学館

▽同3回戦
 高松中央 3-0
 (愛知・城)

▽同4回戦
 高松中央 3-0
 (茨城・古河)

▽同決勝
 高松中央 3-2
 (岐阜・美)

▽同組手個人59^キ以上級決勝
 釜(高松中央) 4-3
 (美)

岩本 伝家の宝刀さえる

男子個人

「うれしい」。空手男子組手個人76kg以上級を制した岩本(高松中央)は、空手人生で初の全国タイトルを獲得し、短い言葉に喜びを凝縮させた。大会を通じて好調を感じており、初戦から順調に勝ち上がった。初の個人優勝が懸かった決勝戦にも緊張は全くなかったといい、「久しぶりの全国大会。楽しみでワクワクして上段蹴りを決めて3-2と逆転。残り35秒で2発目の上段蹴りをたたき込みリードを広げると、最後は余裕を持って試合を運んだ。」

「蹴りは得意」という岩本。指導する崎山監督に「柔軟性がある蹴りに(同校OBで昨年の全日本選手権を制した)崎山優成と同じくらいま

い」と言わしめた伝家の宝刀がが一番でさえわった。26日の団体でも目指すのは優勝。岩本は「チームを勢いづける戦いをしたい。全員で勝ちにいく」と力強く2冠奪取を宣言した。

【空手男子組手個人76kg以上級決勝】上段蹴りを決める高松中央の岩本(左)＝東京体育館



悪い面を修正

空手男子組手個人76kg級5位・池田匠弥(高松中央)

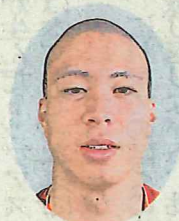


池田匠弥

入賞はうれしい半面、もっと上位に行きたかった気持ちもある。準々決勝は先手を奪ったが、相手のリーチが長くて余裕を持って戦えなかった。悪い面を修正し、団体戦に臨みたい。

冷静になれず

空手男子組手個人76kg級5位・豊田陽也(高松中央)



豊田陽也

優勝を狙っていたのに実力を出し切れなかった。技が大きくなったところを相手に攻め込まれた。冷静になれなかったのが敗因。気持ちを切り替え、団体戦では空回りせずに優勝したい。